



はじめてとらきち君からの手紙を読む方へ、はじめ君は店長の初孫です。多少の可愛いがりすぎは、お許し下さい。



はじめ君が陽君に本を読んであげています。かわいがり方は半端じゃありませんが(過激)歳がはなれているせい、よく面倒をみます!

よう君の写真に、はじめ君がひらがなでよう君と自分の名前を書きました。一(はじめ)は、1歳で簡単にかけたましたが、5歳になっても、はじめのめの字は難しいようです。

来年小学生ですが、大丈夫かなあ~!

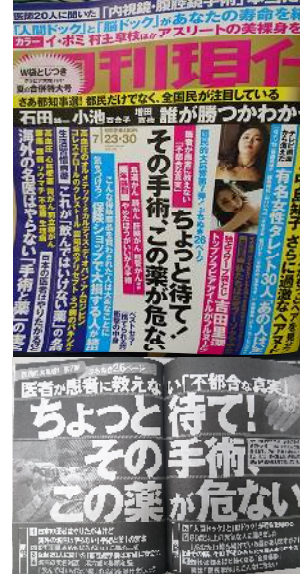
先月号の、生後6ヶ月のこれは誰でしょうクイズ。好評でした。店長の写真を、はじめ君やよう君に間違えていただいたお客様。ありがとうございます

いました。店長は喜んでます(^-^)

最近の週刊誌は過激です。「週刊文春」のスクープ連発で、芸能界も政治の世界も一変してしまいます。NHK以外は民間ですから、大小問わず、放送局も出版社も各社売上を伸ばすために必死です。

中国のように抑圧的な報道規制なるものが日本にあるか知りませんが、新聞社などの大手マスコミも、福島原発の事から始まって、日本で起きている大問題、中国や韓国、北朝鮮、ロシア、米国、に至るまで「何か隠してるのかなあ」なんて懐疑的になるのはボクだけでしょか?

最近の「週刊現代」「週刊ポスト」競って医療の内幕を記事にしています。週刊現代に至っては「6週連続26ページぶち抜き」の大宣伝です。売れるんですねえ~。本屋、コンビニ2軒、3件目でやっと「週刊現代」買えました。厚生労働省の資料を見ると理解できます。



平成26年度の全国の医師数311,205人。歯科医師数103,972人。薬剤師数288,151人。薬を売れる資格を持つ登録販売者数121,137人。総計824,465人。

全ての事柄が全体の20%で構成されるとされる、8:2の法則に当てはめてみると、医療関係者だけで、165,000人がこの週刊誌を買い、薬を飲んで

いる一般市民が買うとなると、おのずと大ヒットになります。

今医療機関ではパニック状態だそうです。新聞に載った「週間現代」の広告を見て患者さんは「先生!新聞に載っていた自分が飲んでる薬!飲んでるとガンになるからすぐ止めてくれ!」こんなことが日常で起こっているようです。

しかし、ある反面、薬を飲んでいる患者さんが「気付いた」ということでは良かったと思います。大新聞では、例え事実だとしても、こんな事は絶対書きません。製薬メーカーは、一面広告を使ってくれる大お得意様だからです。

今は二人に一人は癌になる。なぜこんなに増えたのでしょうか?「早期発見の賜だ」と現場は言いますが、そうであれば、ガンで亡くなる方は減少して当然なのに増えている。医療費もそうです。医療技術も検査機器も向上したと言うのに、国家予算92兆円の内40兆円と増え続けています。

日本国民全員が冷静になって考えてみる良い機会です。20歳の人と90歳の人検査の基準値が同じ。しかも処方薬の種類も量も同じ。そして、薬価が高い薬が選択されます。欧米ではしない手術や薬も日本では考えられないほど使います。病院も患者が来なければ倒産します。患者のための治療なのか、それとも…患者自身が考える時が来たように思います。(一一)